

授業の考察③<高等学校> 「友達のトラブルを解決する方法を学ぼう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、高等学校3時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|----------------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったか |

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

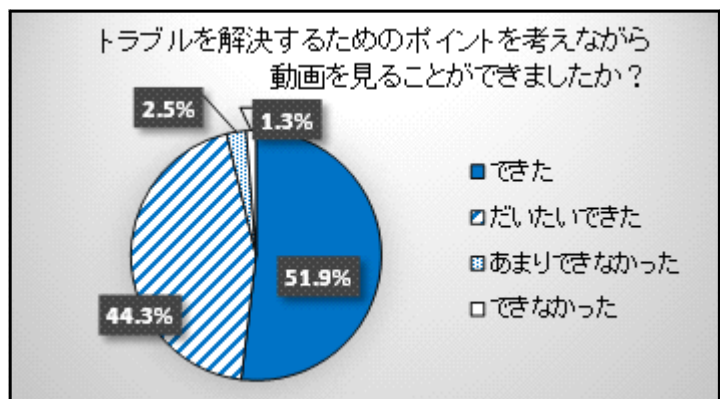
表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

・ 振り返りシートの質問項目「トラブルを解決するためのポイントを考えながら動画を見ることができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・ 振り返りシートの質問項目「トラブルを解決するためのポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・ 振り返りシートの質問項目「トラブルを解決するためのポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること

1 トラブル解決のポイントの理解について

○振り返りシートの「トラブルを解決するためのポイントを考えながら動画を見ることができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は96.2%でした（資料1）。

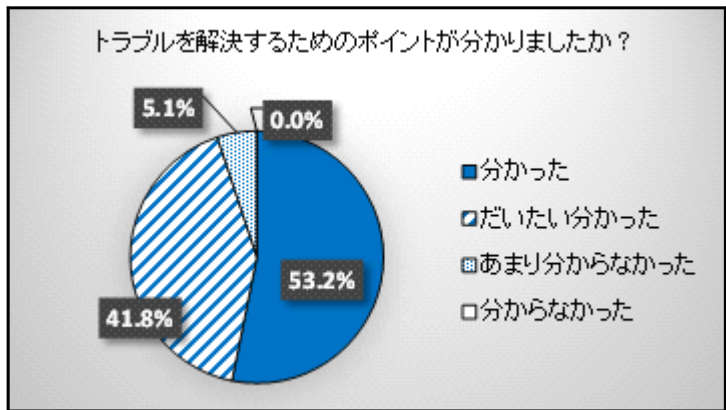
○トラブル解決の動画を見て、「間に入ったCさんのどのようなところが良かったか」という教師の発問に対して、生徒は積極的に意見を述べていました。



資料1 トラブル解決のポイントを考えながら動画を見ることについてのアンケート結果(振り返りシートより)

○振り返りシートの「トラブルを解決するためのポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は94.9%でした（資料2）。

○トラブル解決のポイントがスライドで提示されるたびに、生徒は自主的にワークシートの空欄を埋めるなど、意欲的に参加して理解を深めていました。

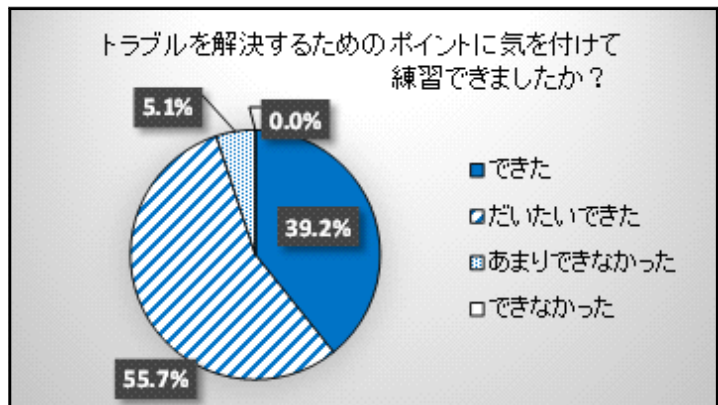


資料2 トラブルを解決するためのポイントを考えることについてのアンケート結果（振り返りシートより）

2 トラブル解決の練習について

○振り返りシートの「トラブルを解決するためのポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は94.9%でした（資料3）。

○練習の場面では、生徒にとって身近な部活動の場面を設定したため、生徒は4つのポイントを踏まえたシナリオを用いたロールプレイに熱心に取り組んでいました。



資料3 トラブル解決の練習についてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上のことから、生徒はトラブル解決のポイントについての理解を深めるとともに意欲的に練習に参加しており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

Ⅱ 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

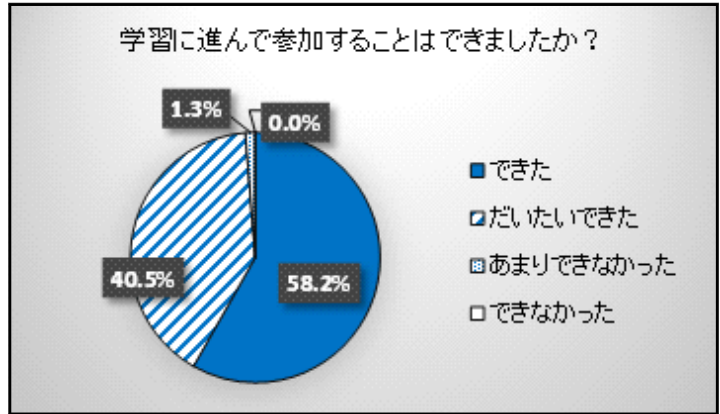
表2 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、トラブルを解決する方法についての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること

と

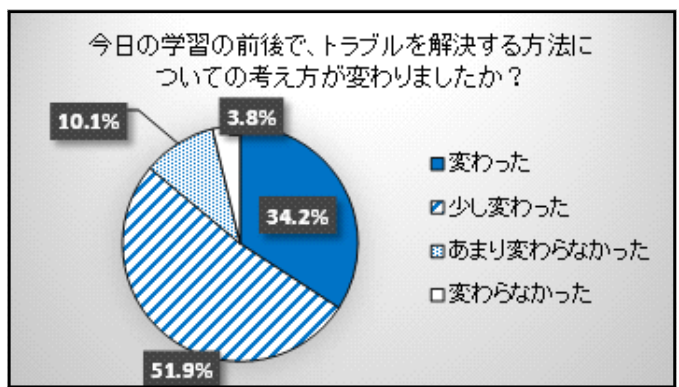
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いませんか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は98.7%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料4）。



資料4 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日の学習の前後で、トラブルを解決する方法についての考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は86.1%で、ほとんどの生徒が学習の前後でトラブルを解決する方法についての考え方が変わったことが分かりました。一方、「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と回答した生徒の記述には、変わらなかった理由として、自分のトラブルに対しては自分で解決したい、あるいは学習した内容を実践することは難しいとあり、学習内容の実践に対して消極的な感想を抱いている生徒もいることが分かりました（資料5）。



けんかの解決を手伝っていいが許可をとるのは初めて知った、

学習の前は自分の案をだしていたかもしれないけど、学習をしてから、当事者たちが解決しなければいけないことが分かった。

自分で解決したい

自分だったら、何が原因か問に入ってさっさと解決したいから

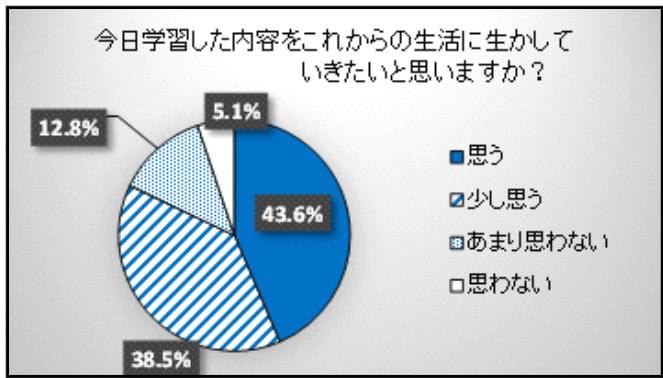
そんな気がした人たことでもない気がします。

◇学習内容の実践に対して消極的な感想が出されたことを踏まえ、今回の学習内容がトラブル解決の方法の選択肢の一つであることやトラブルの場面以外でも生かせるものであることを、授業のめあてや振り返りの教師の説明として展開案に追加することとしました。

資料5 学習の前後で、トラブルを解決する方法についての考え方が変わったかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に活かしていきたいと思いませんか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は82.1%で、ほとんどの生徒が学習した内容をこれからの生活に活かしていきたいと思っていることが分かりました。一方、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒の記述には、現実味がない、実践するには勇気がいるとあり、学習内容の実践に対して消極的な感想を抱いている生徒もいることが分かりました（資料6）。

◇学習内容の実践に対して消極的な感想が出されたことを踏まえ、今回の学習内容がトラブル解決の方法の選択肢の一つであることやトラブルの場面以外でも活かせるものであることを、授業のめあてや振り返りの教師の説明として展開案に追加することとしました。



友達、トラブルは是非見つけたい間に、解決しようという
考えが今までより、たまたま、今回の授業で知り得たことを活かして
トラブルを見つけるときは、活用したいと思えた。

いままで決めていたAさんとBさんは、Cさんが入ることでお互いの意見
のやり取りが、かえって自分も悪いところがあった事にも気づいた。
自分自身の考えも変えて、Cさんはとても大切な役割を果たしている。

それぞれの相手の立場になってみるの気持ち
が、分かって良かった。最後まで相手の意見を
聞くことは大事だなと思いました。

現実味がない

解決しやうけれど、自分かたが責任が重い感じがする

資料6 学習した内容をこれからの生活に活かしていきたいかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業は本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、活動プログラムのまとめとして適切な内容であったことが分かりました。